

福祉みやぎ

2018 9 月号
vol.599

福祉みやぎ

vol.599

平成30年

9月15日発行

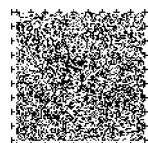
編集・発行/社会福祉法人宮城県社会福祉協議会 〒980-0011 仙台市青葉区上杉1-2-3 TEL 022-225-8476(代) FAX 022-268-5139
印刷/株式会社ソノネ 奇数月15日発行 URL <http://www.miyagi-sfk.net/>

作品
オリジナルランプシェード
作者 宮城県立支援学校小牛田高等学園 美術授業作品より
一人一人の思いを込め、卒業制作として、七色に変化するランプシェードを制作しました。



CONTENTS (主な内容)

- P2 特集
ご存知ですか？
宮城県ゆずりあい
駐車場利用制度のこと
- P4 Heart&Works
ごちゃ混ぜ保育で
たくさんの経験を
- P6 ひと・まち・こころ
- P7 キラリ☆仕事人
- P8 ちいきをつ・な・ぐ
- P9 市町村社協レポート
- P10 復興宮城のいま
- P11 みやぎいきいきシニアだより
こんなことやってます！
- P12 県社協掲示板



県社協掲示板

温かい真心をありがとうございます

下記の方々から、本会に寄附金をいただきました。温かい真心に感謝申し上げます。(平成30年7月24日現在)

平成30年6月5日 株式会社ブリッジさまより
社会福祉事業のために…………… 25,000円

平成30年6月14日 七十七銀行八幡町支店チャリティー
クラシックコンサート参加者一同さまより
法人のために…………… 33,001円

平成30年7月5日 株式会社ブリッジさまより
社会福祉事業のために…………… 25,000円

福祉の職場説明会【障害福祉編】を開催します！

障害福祉施設の職員による講話、求人事業所による個別面談会を行います。
詳細が決まり次第、HPにてお知らせします。

①仙台会場 日時：10月20日(土)11:00~15:30(受付10:30)
場所：東北福祉大学 仙台駅東口キャンパス 6階

②大崎会場 日時：10月28日(日)11:00~15:30(受付10:30)
場所：大崎生涯学習センター
(パレットおおさき) 2階多目的ホール

■お問合せ先：宮城県福祉人材センター
電話番号：022-262-9777

日常生活自立支援事業(まもりーぶ)平成30年度生活支援員全体研修会

7月4日東京エレクトロンホール宮城にて、映画『君の笑顔に会いたくて』の原作者である大沼えり子氏の講演を行いました。講演の中では、子育ての中で出会った方々の寂しく苦しい想いを救うべき奮闘ぶりや内省が保護司となるきっかけとなったこと、自立準備ホーム「ロージーハウス」を運営される経緯となったことをラジオDJらしく重い話を軽快に熱く熱く語られました。

研修会参加者からは、「エネルギーのシャワーを浴びました。」「利用者様の笑顔に会うためにこれからも頑張れそうです。」など多くの感想が寄せられました。



中高年者向け「初めて学ぶ介護入門講座」を開催します！

介護未経験の方を対象に、県内各地で講習会を行います。皆さんお気軽にご参加ください。

地域	【1日目】10時~15時30分	会場	【2日目】10時~16時	会場
登米	9月18日(火)	石越公民館	9月20日(木)	特別養護老人ホーム風の路
仙台	9月19日(水)	文化センターあおぼホール	9月26日(水)	特別養護老人ホーム白東苑
黒川	9月25日(火)	ベルサンピアみやぎ泉	9月28日(金)	特別養護老人ホーム和風園
亘理	10月2日(火)	中正旅館	10月5日(金)	特別養護老人ホーム第二日就苑
白石	10月9日(火)	白石市中央公民館	10月12日(金)	老人保健施設あさくらホーム
栗原	10月16日(火)	栗原市市民活動支援センター	10月19日(金)	特別養護老人ホームいちょうの里
東松島	10月23日(火)	赤井市民センター	10月26日(金)	特別養護老人ホームやもと赤井の里

※詳細はHPをご覧ください。(http://www.miyagi-sfk.net/job)
■お問合せ先：宮城県福祉人材センター 電話番号：022-262-9777

ジョブ・カード制度

経営者の皆様へ

有期実習型訓練の活用のお勧め

活用する企業にとってのメリット

- 訓練期間を通じて訓練生の適性や職業能力を判断することによって、採用時のミスマッチや早期離職のリスクを軽減できます。
- 訓練カリキュラムに盛り込んだOff-JT(座学等)とOJT(実習)を通じて訓練生の職業能力を高めることによって、有能な人材を育成できます。
- 自社のパートやアルバイトなどの非正規雇用労働者を正社員として登用するときも活用できます。
- 人材の育成や能力開発に積極的な企業であることを対外的にPRできます。
- 訓練の終了後に国から支給される助成金を活用することによって、訓練の実施に要するコスト負担を軽減できます。



自社のニーズに合った人材を育成できます！



訓練を終了し、一定の要件を満たす企業に対する 助成の内容

- 訓練生の賃金に対する助成
1人1時間当たり760円(960円) (475円(600円))
- 経費に対する助成
(教材費、外部講師の謝金、施設・設備の借上料、外部の教育訓練機関に支払う入学科、受講料など)
- Off-JT (座学等)
1人当たりのOff-JT(座学等)の訓練時間数に応じた上限額
100時間未満: 10万円(7万円)
100時間以上200時間未満: 20万円(15万円)
200時間以上: 30万円(20万円)
- 実施に対する助成
1人1時間当たり760円(960円) (665円(840円))

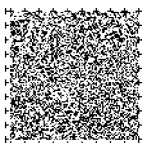
宮城県地域ジョブ・カードセンター
〒980-8414 仙台市青葉区本町2-16-12 仙台商工会議所内
TEL:022-212-4777 FAX:022-211-0720

宮城県地域ジョブ・カードサポートセンター
〒988-0084 気仙沼市八日町2-1-11 気仙沼商工会議所2階
TEL:0226-24-4961 FAX:0226-24-4962

厚生労働省(ジョブ・カード制度総合サイト)
<http://jobcard.mhlw.go.jp/>

全国各地の地域ジョブ・カード(サポート)センターでは、ジョブ・カードを活用した有期実習型訓練を実施する企業を支援しています。
下記の商工会議所のホームページでは、有期実習型訓練の企業での活用事例を文字情報と動画で紹介しています。

詳細はwebで [ジョブ・カード制度](#) [検索](#)



ご存知ですか？ 宮城県ゆずりあい 駐車場利用制度のこと

宮城県社会福祉課

公共施設や商業施設には、障害のある方など歩行が困難な方のために障害者等用駐車区画があります。しかし、対象者以外の方が利用して、本来に必要としている方が利用できないことがあります。

県は、こうした状況の解消を目指し、平成30年9月3日から「宮城県ゆずりあい駐車場利用制度」を開始しました。

どんな制度なの？

障害のある方や高齢者、妊産婦、けが人など、歩行が困難な方に対して、制度の対象となる駐車区画（以下「対象区画」）の

利用証を県が交付する制度です。こうした制度は「パーキング・パーミット制度」と呼ばれているもので、近年、全国的に広がりを見せています。

制度に協力いただける公共施設や商業施設の対象区画には、対象区画であることを示すためのステッカーが標示されます。利用証を交付された方は、対象区画に車両を駐車した後、外から利用証が見えるように、車内のルームミラーなどに利用証を掲示して使用します。



▲標示ステッカー

利用証の交付を受けるには？

対象となる方は、以下の申請方法を参考に、必要書類等を準備の上、各窓口へ申請してください。なお、申請書は申請窓口で配布するほか、県社会福祉課ホームページからもダウンロードできます。

【申請方法】

① 郵送による申請

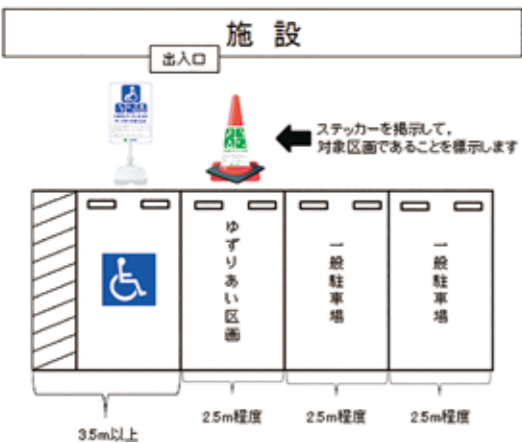
申請窓口／県社会福祉課
送付先／〒980-8570
(住所記載不要)
必要書類等／必要事項を記入した申請書、交付要件が確認できる書類（身体障害者手帳等）の写し（コピー）、返信用切手140円分

② 持参による申請

申請窓口／県社会福祉課・県の各保健福祉事務所（地域事務所）
必要書類／必要事項を記入した申請書、交付要件が確認できる書類（身体障害者手帳等）の原本
※各保健福祉事務所（地域事務所）では、持参による申請のみ受け付けます。

対象区画について

県内の公共施設や商業施設のうち、県に届け出のあった施設



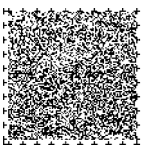
に対象区画が設置されています。対象区画には「車いす使用者優先区画（幅が350cm以上の駐車区画で、車いす使用者等の幅広いスペースを必要とする方が優先的に利用することができ区画）」と「ゆずりあい区画（幅が350cm未満の駐車区画で、歩行困難な方のために設置された区画）」の2種類があります。また、対象区画を設置している施設については、県社会福祉課ホームページでお知らせします。

商業施設などの事業者の皆さんへ

対象者が駐車区画を利用しやすくするためには、できるだけ多くの対象区画が必要です。この制度にご協力いただける事業者の皆さんは、左記へご連絡ください（対象となった施設には、駐車区画の標示用ステッカーなどをお渡しします。）

宮城県社会福祉課 地域福祉推進班

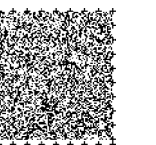
電話番号 022 (211) 2519
ホームページURL
<http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/syahuku/parking.html>



▲利用証の掲示イメージ



▲利用証



Heart & Works

ハートアンドワークス

ごちゃ混ぜ保育でたくさんの経験を

シニアのいる子ども預かり～わらべっこ～

厚生労働省が実施した平成28年度国民生活基礎調査の世帯構造数の統計によると、3世代世帯は昭和61年の5,757千世帯から年々減少し、平成28年度には2,947千世帯となり、30年で世帯数が約半数となっていることが分かります。また世帯の平均人数も2.33人と年々少なくなっています。

今回は核家族化が進んでいる現代において、多世代間交流に重きを置き出張託児を行なっている「わらべっこ」の佐山代表と千葉事務局長にお話を伺ってきました。

幅広い世代で構成され、また保育士やベビーシッターなど、多様な活動を経験してきた託児スタッフとの交流を通して醸し出される託児の環境を大切にしていきたいとのことでした。



▲いろいろな年代が1つの空間に集まります

わらべっこには定年がありません。「何歳になっても、やる気と元気があれば続けてもらいたい」と佐山代表と千葉事務局長は笑顔で話されます。そのため今年度から、高齢になった方も含めた全スタッフによる「安全補助員制」という仕組みづくりに取り組み始めたそうです。多様な世代の持ち味

を有効に組み合わせることにより、より豊かで楽しい託児活動が作りだされ、安全性も一層高まっていくのではないかとお願いを込めた試みとしてスタートしています。「高齢を理由に辞めるスタッフはほとんどいません」と佐山代表。スタッフの定着率の高さが活躍できる場所作りが行われている証だと感じました。わらべっこは親や子ども、企業への支援だけでなく、スタッフにとってもやりがいのある居場所になっているようです。

多世代間交流だからこそ
味わえるあたたかさ

経験豊富なシニアスタッフの暖かい笑顔や、数時間の小さな自立をして過ごす子ども、リフレッシュをして迎えにくる保護者など、たくさんの人がわらべっこには集まります。さまざまな年代・環境の人が集まるごちゃ混ぜの空間だからこそ、同じ世代同士の交流だけでは味わえない、特別なあたたかさ

子育て世代の社会参加と 子育ての両立を支援

わらべっこは平成24年に仙台市シルバー人材センターから独立し、子育て世代の「子どもがいても勉強したい！行事に参加したい！」という社会参加への思いと子育ての両立を応援するため、50代からの保育士や託児経験豊富なシニアのスタッフが中心となり出張託児を行なっています。

出張託児とは、各種企画の運営団体から依頼を受け、当日預かる子どもの年齢や人数に合わせてス



▲ハーモニカの音色に拍手喝采！

かさや繋がりがあると感じました。
(宮城県社協取材)



▲みんなで一緒に！はい、チーズ！

わらべっこスタッフ募集！

子どもが好き、やる気と元気のある方で、わらべっこの活動にご興味のある方は下記連絡先までご連絡ください。

【お問い合わせ先】
わらべっこ事務局
電話番号 070 (5476) 3172



ボランティア・福祉活動行事保険をご利用ください

日帰りの行事中に参加者や主催者がケガをした場合の「傷害保険」と主催者が法律上の賠償責任を負った場合の「賠償責任保険」の2つの補償がセットになった保険です。福祉活動を目的とした団体・福祉的な活動のための保険です。団体性・行事内容により、お引き受けのできない場合もございますので、ご注意ください。

日帰り行事の場合には、内容により保険料が異なります。

A区分	高齢者スポーツ大会、お茶のみ会、各種教室など	30円
B区分	運動会、日帰りキャンプ、サイクリングなど	135円
C区分	サッカー、ラグビー、スキーなど	264円



ご不明の点は
お問合せください！

みやぎボランティア総合センター TEL 022-266-3951
三井住友海上火災保険株式会社 TEL 022-221-3171
株式会社オンワード・マエノ TEL 022-762-9915

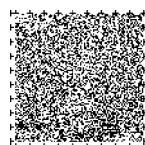
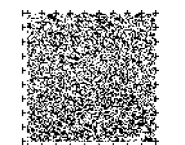
お問合せ先

この制度の各補償は宮城県社会福祉協議会が保険会社と締結した保険約款により行います。

経験豊富なシニア世代に よる預かり保育

スタッフを会場に派遣し、イベントや研修会の時間中に子どもを一時的に預かるものです。委託する企業側も、託児付きの企画にすることで子育て世代の参加の獲得に有利になります。出張託児先は仙台市ハーモニカのコンサートなどのイベントや、大学の学会、研修会などいろいろな所から依頼があるそうです。

現在は22名のスタッフが登録しており、年齢は50代から80代まで幅広く、年齢も経験もさまざまですが現役を引退された方々が主力メンバーです。「いろいろな年代や資格、人生経験をもった人たちが、ごちゃ混ぜになっている空間をつくりたい」と千葉事務局長。いろいろなタイプの人と関わりを持つことは、子どもの成長にとって良い刺激になるということから、



ホームレスの自立支援について

NPO法人ワンファミリー仙台

ホームレスとよばれる人たち

宮城県において平成30年1月の調査で99名、内、仙台市では97名のホームレスが確認されています。全国的に減少傾向にありますが、宮城県では東日本大震災の復興関係の影響が横ばいになっています。ただ、全国的にホームレスの減少したとはいえ、ホームレスの定義は「都市公園、河川、道路、駅舎その他の施設を故なく起居の場所とし、日常生活を営んでいる者」とされており、この数字には、車上生活者やネットカフェで暮らす不安定居住層の方々は含まれていません。故にホームレスの概念を諸外国とあわせ、不安定居住層の方々までホームレス状態とすると、相当数の不安定居住層⇨ホームレス予備軍がいることになり、仙台市内だけでも150名以上の方が不安定な状態にあるのではないかと推測しています。

ワンファミリー仙台の活動

当法人のホームレスを支援する主な活動を2つ紹介します。

1つ目はホームレスとの出逢いの場となる「フリンボランティア530活動」です。「朝食を得ることで一日の生命線が保たれる」という当事者の声から、平成14年にホームレスとの清掃活動を始めました。ホームレスになっても「自分が世の中の役に立っている」と少しでも実感してもらいたいと考え、毎週水曜日の朝に仙台駅から勾当台公園までのゴミを拾っています。

2つ目は緊急的な住まいの支援（シェルター事業）です。平成21年より、ホームレス状態の人に緊急的に一時的な住まいを提供しています。昨年度は130名以上の方がシェルターを利用し、本年は7月末の段階で38名が利用中です。平成27年には「生活困窮者自立支援法における一時生活支援事業」という不安定居住層への支援制度ができ、「不安定居住層からの相談

は現在地で保護する」とされていますが、この事業を実施していない自治体が多く、現在、仙台市へ不安定居住層が流入しています。今後は、福祉事務所設置自治体へ一時生活支援事業を必ず実施してもらおう働きかけをしていきたいと考えています。

ホームレスの自立支援について

一言で「自立」を表現することは難しく、病気のある方や借金のある方など、一人ひとりの状況に応じた自立のスタイルがあると思っています。「自立⇨就労や経済的自立」と考える風潮もありますが、それも選択肢の一つであり、その人の状況に応じた自立のカタチを模索しています。

喫緊の課題としては、車上生活やネットカフェで起居する不安定居住層の方々に対する支援と、長期化するホームレスの方をどの様に自立に導いていくかと毎日葛藤しているところです。

キラリ仕事人

このコーナーでは福祉の職場で働くキラリ☆と光る人を紹介します



今号では、
(公財) 日本盲導犬協会
仙台訓練センターで
盲導犬訓練士として働く
池田かなさん
にお話を伺いました！

現在の仕事の内容を教えてください

盲導犬の候補犬が盲導犬としてデビューするまでの訓練と、パピーウオーカーという生後2ヶ月から約1歳まで候補犬を育てるボランティア家庭へのケアを担当しています。

盲導犬訓練士というと犬との仕事のように思われがちですが、ボランティアや※盲導犬ユーザーと接する機会もあり、人とのコミュニケーションも大切な仕事だと感じます。

※盲導犬ユーザー…盲導犬と共に生活している視覚に障がいのある方



▲障害物を避けて歩行する訓練

盲導犬訓練士を目指すきっかけを教えてください

小学生の時に本を通じて盲導犬訓練士という職業を知りました。大学生になり「自分が目が見えなくなったら」と考えた時、大好きな外出が今まで通りできれば楽しく暮らせるかなと思い、盲導犬という存在の大きさを考えるようになりました。また、本で見た盲導犬ユーザーの「盲導犬と外を歩いている、また青空が見えたよな気がした」という一文が印象的で、私もそういうお手伝いを目指したいと思い、盲導犬訓練士を目指しました。

やりがいを感じる場面はどんなところですか

訓練士は、それぞれの候補犬の性格や将来的なビジョンに合わせて訓練方法を変えるのですが、自分の「こうしたらいいかな」という計画と犬の学習が一致した時は嬉しいです。他にも、ユーザーから「盲導犬がきて外に出られるようになった、今までより遠くに行けるようになった」という声をきくと、私たち盲導犬訓練士は犬の訓練をするだけではなく、犬と一緒に生活をする盲導犬ユーザーの人生をより豊かにする一助になっていることを実感し、やりがいを感ずります。

難しい場面はどんなところですか

自分自身のこういう訓練をした、こういう姿になってほしいというイメージを犬に押し付けられないよう、また上手くいかなくても冷静でいるように心がけています。犬の考えていることをくみ取りながら常に成長のイメージを持ち、犬に合わせたペースで訓練していくことは難しいですね。

盲導犬訓練士の魅力を教えてください

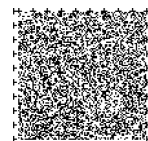
はじめは「自分の訓練した犬が後の盲導犬ユーザーの元へいく」という、犬と自分の関わりだけをイメージしていました。実際には、候補犬が生まれてから訓練センターに来る前、訓練中、盲導犬としてデビューしてから引退をした後までの一生には、ボランティアや活動を応援して下さる方々の多くの繋がりがあります。その思いを受け継ぎ盲導犬ユーザーへ繋いでいくことが盲導犬訓練士の仕事であり、魅力だと感じています。

公益財団法人日本盲導犬協会 仙台訓練センター

東北地方で唯一の盲導犬育成施設です。盲導犬の訓練だけでなく、視覚障がいリハビリテーションにも注力し、目の見えない人、見えにくい人の生活の質(QOL)の向上と充実のため、東北6県・新潟を網羅して活動しています。

【お問い合わせ先】

仙台市青葉区茂庭松倉12-2
電話番号 022 (226) 3910



▲530活動の集合場所(仙台駅ロータリー付近)

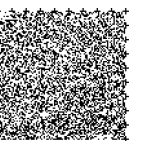
道路などに落ちているゴミを拾っています▶

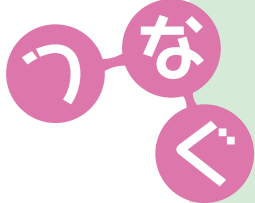


▼530活動終了後の報酬を手渡ししています

お問い合わせ先

NPO法人ワンファミリー仙台
仙台市青葉区二日町4-26 デイリーハイツ二日町102
電話番号：022 (398) 9854





「地域生活支援オレんじねっと」の取り組み

今後さらに進展する高齢化、単身世帯の増加と社会的孤立の拡大に対応する為には、専門職によるサービスだけでなく、地域に暮らす人々の助け合い・支え合いが必要とされています。今号では「困ったときはお互いさま」をモットーに住民主体の助け合いによる生活支援を広げる活動を展開している「NPO法人地域生活支援オレんじねっと」(以下オレんじねっと)の活動を紹介します。



地域にやさしい支えあい輪を広げていく

「困っている人に寄り添い、自分たちができる事で助け合い活動を続けてきました」と話すのはオレんじねっとの代表の荒川陽子(あらかわようこ)さんです。ボランティア仲間がさまざまな活動を経験し、できることを増やすことで自信をつけ、長年活動している方が増えており、今では高齢者や障がいを持つ方の支援、子育ての手伝い、家事から専門的なスキルが必要な支援まで、対応できるようになりました。助けを求めている人から学び、活かされ、必要とされ、感謝される喜びが更なるチャレンジに繋がっています。

これまでの支援活動は、社会保障制度の対象から外れた人を地域の助け合いで支える、個別支援活動でしたが、これからは地域の支え合いの在り方を当事者や住民がみんなで考え創り出していく時代

がやってきました。荒川さんは、価値観の異なる多世代がふれあい、つながり、学び合い、対話を通じて新しい社会を築いていけるように、多種多様な連携を進めていきたいと考えています。



▲「ときめきカフェ」は気軽に立ちよれる交流の場になっています

地域に根ざす繋がり場「お互いさまの地域づくり」

「誰でも気軽に立ち寄り、ふれあえる交流の場がほしい」という会員の声があがり、8年前に「ときめきサロン&ときめきカフェ」をオープンしました。ランチの時間になると、地域の常連さんや遠方から来るお客様も多く、食事を取りながら会話をを楽しむ、繋がる場として浸透している様子が伺えます。「ここは人と関

わる力を育てる場。自然と相手のことを理解する力が育ち、集う人同士も気に掛け合うようになりました。社会に関わるには人それぞれプロセスがあります。人を思いやり手を差し伸べる力、社会人として育っていくためにチャレンジするきっかけや出会いを提供し、待つことが大切。私自身もたくさんの人に育ててもらってきた。活動が続けられているのは皆さんの寛大な愛情のお蔭様です」と荒川さんは長年の活動を振り返る。

昨年6月に法人格を取得したオレんじねっとの「やさしい支えあいの輪」を更に広げていく取り組みを今後



▲行事を通して地域のつながりが広がっていきます

共感しあえる体験を大切に

東日本大震災後の新たな地域課題の一つが「世帯数が増加した地域における転入世帯の孤立」。また、被災を免れた地域でも「サロンなどに参加する方はいつも同じ人」「高齢者の引きこもり」などがあげられます。気仙沼市社協では、従来から身近な地域でのさりげない見守りや支え合いなどを推進(小地域福祉活動)してきました。平成29年度からの地域づくりの基盤を整える事業(市委託生活支援体制整備事業)を通じて、新たな支え合い活動の一層の推進を図るとともに、住民が意識せずに行っているさまざまな助け合い・支え合いの素晴らしさを地域に発信しています。

積極的に地域に出向き、住民の暮らしの中にあるさまざまな知恵や工夫を見つけ出し、それらを意味づけして、住民と共感体験を積み重ねる役割、そして、新たな支え合いのしくみを推進・調整する役割を担うのが市内16地区社協圏域毎に配置された「地域支え合い推進員(第2層生活支援コーディネーター、以下「推進員」)」。地区社協から選出した「地域支え合い協力員(以下「協力員」)」と共に社会資源開発につながる「宝物探し(地域アセスメン

地域づくりの推進体制

協力員は、その地域に住み、地域をよく知る方々で市社協鈴木美紀地域福祉課長によると、「彼(彼女)らは地域づくりや支え合いのしくみを一緒に推進することを目指して配置した地域を知り尽くした、暮らしのプロ」。地域のキーパーソンと推進員を繋ぐ重要な役割も担ってくれているとのこと。

協力員が活動を通して感じている悩みを聴き、推進員・協力員ともに活発に活動するには、それを支える体制づくりが必要です。そのため、自身も推進員(第1層)として地域づくりに取り組んでいる鈴木課長は、定期的に市担当の推進員連絡会議や、推進員・協力員合同会議を行っています。



▲協力員と鈴木課長の意見交換の様子

住み続けられる地域づくり

住民同士が行っているさりげない見守りや支え合いの積み重ねが、気仙沼

市の目指す地域づくりであり、市社協が大切に育んできた小地域福祉活動。「この推進員・協力員による宝物探しを組織としてバックアップしている」と鈴木課長は話してくださいました。

この活動は、高齢者に限らず、さまざまな生活課題を抱える人々を地域から排除せず、居場所や社会参加を通じて地域で受け止め支え合う地域づくり。身近な地域で住民同士が行っているさりげない支え合い、困った時の助け合いなどの様子をわかりやすく伝え、共有することの繰り返しですが、気仙沼市社協の目指す住み続けられる地域づくりへと繋がっていると感じました。

(宮城県社協取材)

市町村社協 レポート

支え合いながら住み慣れた地域で暮らすために

～ 気仙沼市 生活支援体制整備事業の取り組み ～



▲地域支え合い推進員と協力員の合同連絡会議の様子

平成27年4月の改正介護保険法における新しい地域支援事業は、新しい総合事業と包括的支援事業の2つで構成されています。これらの事業は「地域づくり」「地域福祉」の視点で捉えることが必要です。

今号では、気仙沼市社会福祉協議会がこれら事業を進めるために市内16地区社協圏域に地域支え合い推進員(生活支援コーディネーター※)と地域支え合い協力員を配置し、地域住民とともに地域づくりを進めている取り組みを紹介します。

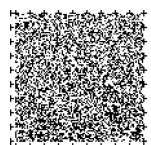
※生活支援コーディネーター…高齢者の生活支援等サービスの体制整備を推進していくことを目的とし、地域において、生活支援等の提供体制の構築に向けたコーディネート機能(主に資源開発やネットワーク構築の機能)を果たす者

気仙沼市社会福祉協議会

人口 / 64,286人
(平成30年6月末日現在)
社協職員数 / 214人



本所のほか、本吉・唐桑の2つの支所があり、「地域でみんながふれあい支えあって自分らしく安心して暮らしていけるまち」を目指した地域福祉事業を始めとして、介護福祉・障害福祉事業など幅広く事業展開を行っています。



“よそのおばちゃん”
だからこそできることがある

えぜるプロジェクト 清水沢東住宅こどもカフェ（塩竈市）

塩竈市は次世代を担う子どもの育成のためのアフタースクール事業を進めており、「Shiogamaこどもホットスペースづくり支援プログラム」は、魅力的な活動と居場所の提供をとおして、子どもが笑顔に、そして地域の方々も元気になるまちづくりを目指しています。プログラムのひとつ、清水沢東住宅集会所での“清水沢東こどもカフェ”について、主催の「えぜるプロジェクト」（以下「えぜる」という。）に話を伺いました。

子どもが安心して過ごせる
ほっとスペース

月曜日の午後、集会所に元気な声が響きます。平成30年1月から始まったこどもカフェは、「おやつ、しゅくだい、えほん、ゲーム、うた、ひみつの〇〇」が普段のメニュー、そして季節のスペシャル企画とお楽しみが満載です。

仮設住宅被災者支援から地域での活動へ

「えぜる」は震災後、仮設住宅集会所で大人中心のサロンと、放課後子どもサロンを運営してきました。仮設が解消され、現在公営住宅での大人向けサロンは塩釜市社協ふれあいサポートセンターが担当していることから、子どものケアを続けています。

「ボランティアの減少で、仮設の解消に合わせて活動の終了も考えました。悩んでいた時、仮設で出会い今は高校生になった子から『子どものための活動をこれからも頑張つて』とメールをもらい、大人が頑張らなくてごつする、と思っただけです。これまでの活動



▲子どもたちが力を合わせた力作
「動物たちの森」

岩絵具を使って描く日本画に魅せられ
身近なものを題材に自分の配色を追求



昨年11月30日から4日間、県社協が開催した「第25回宮城シニア美術展」日本画部門において優秀賞に輝いた河野尚枝さん（仙台市太白区在住・68歳）にお話を伺いました。

河野さんは以前から岩絵具を使って描く日本画に興味を持っていました。十数年前に河北展で入賞した作品を見て、「上手い、どのようにして描くのだろう」との気持ちが強くなり、直ちに教室に入ったそうです。

絵は花瓶、果物、置物や庭の花など身近にあるものを題材に、年に7、8点描いており、特に、庭に咲いているバラの花を描くのが大好きだそうです。シニア美術展に出展した「紫陽花の頃」

は庭の紫陽花を描いたもので、「ポップな配色に新しさを感じる」と評



▲庭の紫陽花と河野さん

価されました。

『下手も絵のうち』と一枚描いてみたいのが自分の原点であり、上手く描けたと思った時が一番うれしい。出来上がった絵も、後で何度も書き直すので未完成と思っている。描こうとするが、デッサンが苦手ですが、でも描き始めると楽しいし、完成するまで2か月程度かかるが集中できる」と話していただきました。

日本画は小下図から大下図に、そして麻紙に写し取っていく手の掛かるもので、膠の濃い薄いの加減や絵具の色ごとに14段階あり使い方が難しく奥が深いのだそうです。

河野さんは「シニア美術展は部門が多く見て楽しいし、出展者の技術も高いので凄いと感じました。続けて出展したいし、数年前から始めたパッチワークもここつやつやって時間はかかるが出展したい」とこやかに話してくださいました。

こんなこと
やっています

ここでは、宮城県社協の事業をご紹介します

宮城県船形コロニー

自然豊かな大和町にある宮城県船形コロニーは、宮城県から指定管理者の指定を受けた、宮城県社会福祉協議会が運営しています。

施設入所・生活介護

重度・最重度の知的障害者の自立した生活をめざして、日中活動・生活の支援、地域生活移行の取り組みを行っています。

また、短期入所も行なっています。



▲日中活動（個別外出）



▲クリスマス会



▲農耕作業



▲馬房の清掃

就労継続支援B型

知的障害者の福祉的就労支援の場を提供しています。農耕作業や馬房の清掃などを行なっています。

で知り合った方々に声がけし、協力してくれる仲間（スタッフ）が集まってくれました」と代表の山田みちえさんは当時を振り返ってくださいました。

大事にされた記憶があるから人も自分も大事にできる

清水沢東住宅は多くが被災世帯のため、自分や家族が辛い体験をした子どもや、さまざまな事情でほかの地域から転居や転校してきた子どももいます。また今の子どもたちの世界は大人の想像以上に複雑で、人間関係も難しくなっています。

こどもカフェは、子どもが子どもらしくいられる時間と場所を提供しています。スタッフが子どもの動きや様子をさりげなく目配りする中で、自分のペースで過ごす子、大声を出して全力で遊ぶ子、小さなわがままも言いながら全身で大人にぶつかっていく子、とのびのび過ごしています。

「子どもは受け入れられ、かわいがられ、ほめられ、注意をされて人との関わりを学び育ちます。

家族には言えない悩みを他人には言える場合もあります。大人が関わり続けることが大事だと思えます。

私たちは子どもにまっすぐ向き合い、一緒に笑い、できたらほめ、時には叱り、来てくれて嬉しい。そんな気持ちを全力で伝えます。何かの時、よそのおばちゃんだけど、信用できる大人がいる。と思ってくれたら嬉しいです」（えぜるスタッフの皆さん）

小さくても積み重ね続けたい

「子どもは未来そのもの。子どもが健全に育たない地域に未来はないので、大切に育てたい」それがえぜるの皆さんの思いです。今後も活動を継続し地域に根差していくには、スタッフのボランティアや資金の確保が大きな課題ですが、子どもたちが安心して暮らせる地域のために、小さくてもできることを積み重ねていきたいです、と話してくださいました。

（宮城県社協取材）